

**Indonesia's new bird flu policy angers families** Forbes, NY (米国) インドネシアの新規政策に(鳥インフル犠牲者の)家族達が怒る 2008/6/14

AP

アリ・ウシマンの妻は10日前に鳥インフルで死亡したが、彼は未だ政府から公的にはその事実を知らされていない。彼は新聞報道に情報を探し続けたが、先月まで鳥インフル情報を徹底的に書き続けていた各紙には、一切情報は見つからなかった。

その理由は、個々の鳥インフル患者発生事例をすぐには発表しないという政府の新政策によるものだ。政治家達は死亡情報を発表しても、同国としては何の得策にもならないという判断をくだしたのが、新政策の根拠だ。

これから死亡者発生に関して、まとめて、多分数ヶ月ごとに発表される予定だ。

このような報道管制に保健専門家達は心配し、政府の担当者達と、ウイルスが広範囲に感染を広げている地域の人々に混乱と不満の増大をもたらしている。

AP通信は6月3日に死亡したウシマンの妻のスジ・リスナワチの事例を確認するのに1週間要した。彼女の死亡は同国で110人目となる。

彼女は典型的鳥インフル症状、すなわち呼吸困難、咳、高熱を呈していたが、2日間の入院期間隔離されてなく、また鳥インフル疑い者として治療されることもなかった。そのように夫は語っている。

彼女は伝統的イスラム教式埋葬で葬られた。

遺体は家族が素手で洗い清められてから埋葬の準備がなされた。

「私はすごく不安だ。検査結果を知る必要がある」、とウシマンは言う。44歳の仕立屋で3人の息子がいる。

「政府は一般大衆の注意を喚起すべきだ」。

世界で最も鳥インフルによる人の死が発生しているインドネシアは、パンデミック発生の震源地となる可能性が高い。理由はその人口密度の高さと、放し飼いの鶏の多さである。

ウイルスは未だ人には感染しづらいが、専門家はウイルス変異により簡単に人人感染が起き出し、世界で数百万人死亡するパンデミックが起きることを警戒している。

WHOは2007年初めからウイルス検体の共有に関してインドネシアと激しい論争を続けているが、今回の件に関して、インドネシア保健相のシチ・ファディラ・スパリ女史が、新規死亡者事例はWHOに報告し、国際保健規則に違反するようなことはしないと約束したと発表した。

「インドネシアは継続的にWHOに報告することに同意した。報告しないとは、決して言っていないとインドネシア政府は言っている。WHOのインフルエンザ専門家のリーダーであるデービット・ヘイマン氏は、そのように語っている。そして、「ウイルスが分かっている限り、適切に扱われている限り、国の死者数の公的発表まで数週間要したとしても問題ではない」、と付け加えている。

それでも事態の不透明性は、保健担当者、科学者、そして市民の間では、政府が死亡事例を隠蔽するのではないかと不安感が高まっている、とくに、WHOと連携せずに、インドネシア政府が単独で、診断やリスクア

セメントに必要なH5N1 ウイルスの遺伝子分析を行うことを危惧している。

政府の発表では、近親者達の公的検査結果はほとんど迅速に（家族に）伝えられているとされる。ウシマンの報告されなかった事例は例外的なのかも知れない。

しかし、保健省は説明を求められたとき、報道官であるリリー・スリチョワチさんが、検査結果は陰性だった、そして数日以内に家族の元に結果が知らされただろう、と言っているが、保健省のある高官は匿名で、検査結果はその後陽性と確認されたと語っている。

他の4人の保健担当者達は、国内の機関で検査された結果について、のはやメディアに報告することはないと言っている。

バリ島のウダヤナ大学のウイルス学者であるグスチ・ニューラ・マハルディカさんは、発表された新政策は時代に逆行するもので、人々は鳥インフルとその脅威について、何も心配しなくなるだろう、と語っている。